

Press Release

2015年9月7日

日本初！“梱包から包装”へ DMG MORI 製品の輸出梱包に自社オリジナルシートを採用

DMG 森精機株式会社では、日本から世界各地に向けて工作機械を輸出する際に、自社ブランドロゴ「DMG MORI」掲載の自社製シートで工作機械を“包装”するという新しい取り組みを、9月1日より開始いたしました。

工場から出荷された工作機械は、海貨事業者の倉庫に搬入され、主に海上輸送に適した梱包を施して船積みされています。しかし、工作機械は、海上輸送に通常多く使われる箱型のドライコンテナに入らない大きさのものも多く、特殊なフラットラックコンテナというコンテナに積載して輸送します。フラットラックコンテナには、屋根と2面の側壁がないため、外部環境から工作機械を守るための鉄製の枠内にいれ、その上から防塵・防滴のためのシートをかけています。このシートには、一般的にブルーシートが使用されているため、どの貨物も同じような外観になります。そのため、海貨事業者にとっては、どのような製品が中に入っているのか外観から判断することはできず、精密機械といっても他の貨物同様の扱いを受けているのが現状です。

今回、お客様からご発注いただいた大切な DMG MORI 製品を、お客様のお手元まで大切にお届けしたいという思いから、海貨事業者と協議の上、自社シートを製作しました。自社ブランドロゴ「DMG MORI」を掲載するとともに精密機械であることを明確に表示、さらに荷扱上のケアマークを充実させて取扱上の注意を強く喚起するようにしました。

これにより、お客様にお届けする最高の工作機械を、製品にふさわしい形でお客様にお届けすることができるようになりました。また、海貨事業者においても、DMG MORI ブランド製品を取り扱っているという意識を常に持っていただくことで、お客様にお届けするまでのサプライチェーンにおける一層の品質向上につながることを期待しています。お客様には、外観・品質ともによりご満足いただけるものと考えています。

自社製シートの対象は現在のところ、日本で生産された工作機械でフラットラックコンテナに積載するサイズのものとなります。このフラットラックコンテナに積載する貨物の梱包シートをメーカー自らがマネジメントすることは日本で初めてです。今後は、ドライコンテナに積載可能な工作機械や、国内のお客様にお届けする工作機械、また、DMG MORI グループが全世界で生産・輸出している工作機械についても、同様の考え方に基づく取り組みを順次導入いたします。

当社は、さらなる品質とお客様満足度向上を目指し、今後の製品開発やサービスサポートの一層の充実を図ってまいります。

以上